予算案を家計に例えると…

「民宿あべ」この道しかない

出費かさみ借金頼み

「民宿あべ」の主人のアベです。海辺の小さな町でほそぼそと営業しています。アベノミクスとやらで都会には好景気の波が押し寄せているようですが，このあたりではさざ波すら立っていません。昨年，宿泊料を値上げ（**消費税を増税**）したので売り上げは増えましたが，病院代などの出費がかさみ，借金頼みの生活が続いています。

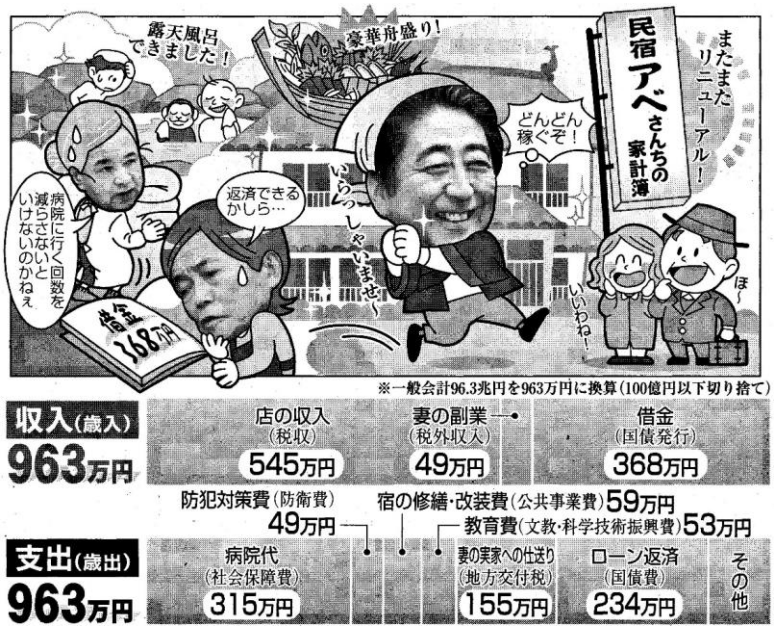
２０１５年度は１年間にかかるお金（**一般会計総額**）が，これまでで一番多い９６３万円になります。このうちおばあちゃんの病院代（**社会保障費**）は３１５万円で，昨年より１０万円増えました。子どもの学費（**文教・科学技術振興費**）には５３万円かかりそうです。

最近は何かと物騒なので，警報装置などの防犯対策（**防衛費**）に４９万円をかけます。台風や津波も心配なので，宿の修繕・改装費（**公共事業**）には５９万円を使います。

東日本大震災からの復興はまだ道半ばなので，別の財布（**復興特別会計**）から３９万円を出そうと思います。改装費などのローンの返済（**国債費**）が２３４万円もありますし，妻の実家への仕送り（**地方交付税**）は１５５万円と昨年より減らすことになりそうです。

民宿の売り上げ（**税収**）は５４５万円と２４年ぶりの大きさですが，妻が作る民芸品の売り上げ（**税外収入**）の４９万円を合わせても支出をカバーできません。ことしも３６８万円の借金（**国債発行**）で埋め合わせました。去年の借金より減りましたが，これまでの借金総額（**１５年度末国債残高**）は８，０７１万円になってしまいそうです。

わが家の財政を握る妻からは「**結果が出ないのは経営者の能力がないからよ**」と責められています。夏までに借金の返済計画を作れと言われているのですが，企業の団体客や外国人観光客をどーんと増やして，不景気から抜け出すのが先決でしょう。この道しかないと思います。



１５年度予算案の１兆円を１０万円に換算し，家計に例えました。

平成２７年１月１５日（木）／南日本新聞